森の名手・名人シリーズ34

名人 伊藤 博（62）
岐阜県中津川市

聞き手 山本 航平
静岡県立静岡農業高等学校二年
平成21年取材

宮大工 木を見極める力

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、44名の「森の名手・名人」がいます。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

1. 宮大工になろうと思った理由

中学卒業してから、建具屋に行っとった。建具屋では障子とかガラスを造ったりする大工の修行を20年やってから独立したんよ。独立してから3年後に宮大工になったんだけど宮大工の仕事をやろうと思ったのはさ、名古屋で大工の仕事をやってたときにな、成道寺っていうお寺の山門を造る仕事を頼まれたんよ。木曽ヒノキっていう樹齢が350年以上経ったヒノキで造ってくれっていわれたもんで、それから勉強して昔の壊した物を見たり、参考書を買ってきてみたりしていろいろ勉強してよ。基本的には大工の仕事と同じやわな。やってみたら意外と訳なしにできたもんで「あ～、これはいいな」と思ってやっていたら仕事の規模が大きくなってよ。それからそっちの仕事のほうが多くなったな。

2. 寺院の仕事は分業制

彫刻物は彫刻家の専門家へ出して、その間に大工は建前をやって造作のほうをやる。それで、彫刻家が彫り終えたらそれを持ってきて仕上げる。宮大工とはそういう仕事や。1つのお寺を造るによ、着工から完成までに1年半ぐらいかかるな。急いでやってほしいって言われても1年くらいはかかるから分業してやらんと時間ばっかくっちゃってどうしようもない。

3. 木をたくさん使っての仕事

木材は鉄筋コンクリートと違って割れが入ったって200年でも300年でももつ。瓦を時々修理してやればいい。東京や名古屋の方では4、5階建ての鉄筋コンクリート住宅があるけど鉄筋が腐食して4、50年でもうボロボロになっちゃう。ヨーロッパみたいに石で建てれば結構もつけど、日本は地震が多いもんで一発で倒れちゃう。だもんで、石じゃできんし鉄筋コンクリートは明治時代以降の話やもんで歴史が浅い。木造は一番歴史が古い。唐招提寺でも何百年とか何千年とか前に建てた物が今でも残ってるからな。でも防火地域や名古屋市内のような周囲が密集しているところで本堂を建てようとする場合は鉄筋コンクリートしか許可が下りないこともあるな。

木は自分で選んでいる。近くに大きなケヤキの市場があるもんで毎月そこに行ってその都度2本～3本ずつ買いこんでおく。そうすると全体的に安いし素直な木が買える。うんと経験を積むとな、材木を買うときどの木がカンナで削りがいいか見ただけで分かる。これなら自分でも簡単に削れるなっていうかんじの木を買うとはずれがないよな。他にも木を買うときは必要な長さの木より2、3㎝大きいものを買う。加工している途中に虫食いが見つかってもちょっと削れば簡単に取れちゃう。

4. 木は乾燥させることが大切

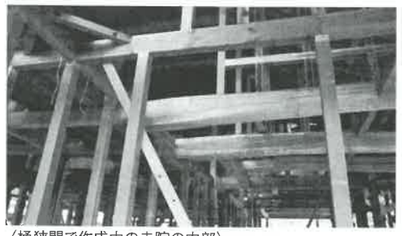
木は生だとダメ。狂っちゃう。何年も乾かした木材を使ってくっつけたものだとしても木が縮んで隙間ができちゃう。木が生きとる。幅が50㎝あるものでも乾燥すると1㎝痩せちゃう。来年の今頃になってもまだ5㎜ぐらいしか縮まんわ。だもんで、あらかじめあと何㎜くらい縮むかだいたいの計算で長さを大きくしておかんといけない。そいで、2年か3年くらいして痩せてきたときに水平になるように加工するんよ。ケヤキってのは、乾かしているうちに絶対上下から割れめが入ってきちゃう。だもんで、4mの材料を使うにしても5mを買って干しとかんといけないし、やっぱり上の方は温度が上がるもんで段ボールを巻いとるんだよ。まだ3、4年もほかっとく場合は木の根元とは逆の先端を2㎝ばかり大きくしたら、根元の方は5㎝くらい太くして台形にするわけよ。そうすれば、だいぶ乾燥して曲がっても元が太いもんで左右に寄せて真っすぐに直せるわけや。

工場では乾燥させるために天井につるしてある小さなクレーンを使って100キロ以上の木をたたしている。下の方は2㎝ぐらい浮かしてやると風通しが良くなって早く乾燥するんよ。地面から木の中に含まれる水分にはすぐ下に下がっていく性質があるから、寝かして乾かす時より乾燥が5倍か6倍は早いわな。それに冬場の寒い時に乾燥させるのが一番いいな。まだ温度が高い時だと空気中に菌が漂ってるもんでその菌が木を腐食させるわけよ。12月になって0℃以下になると菌は空気中に存在できなくなるもんで、それから皮をむいて鉄骨の台の上に3月まで干しとく。そうすると表面が乾いてもう菌は入ってこれなくなるな。

5. 木の性質

木ってのはそれぞれ個性があって素直で真っすぐな木もありゃ、根性のひねくれた木もあるわけよ。カンナでなかなか削ることができない堅い木ってのはよ、風にあおられて手前に傾いたり向こう側に傾いたりを何年もされていくうちに、もう反木（そり）（木の繊維が湾曲すること）ができちゃってる。木は山の斜面に植わってたら常に前向きに立とうとする力が働く。それで、針葉樹は背中が反木、山の斜面に対して下をむいてる方を太らせて押して起こそうとする。広葉樹は反対に山の斜面に対して上を向いてるほうが反木になっとる。そういう木は安く買えるもんで、買ってきて3分の1くらいずつに切るわけよ。そうすると木の繊維が切られて曲がっていた木が真っすぐになっちゃう。経験を積まんとそういうことがなかなか分かんないな。

〈伊藤さんが普段働いている工場〉
ここで彫刻物を造ったり、木材を乾かしたりしている。



〈桶狭間で作成中の寺院の内部〉
木材に段ボールを巻いて、傷ができるのを防いでいる

〈伊藤さんの元で働く弟子の方〉
桶狭間にあるお寺を造っているところ

6. 名人の自宅

俺の家は去年建て替えたばかり。普通の自宅とはちょっと変わった造りをしとる。

1　階

【リビングにあった引き出し】…ケヤキで造って、漆を塗ったんよ。何年も乾かした材料を使っていても木が縮んで奥に引いてきてしまってる。

【トイレ】…床は栃の木、仕事場の机もこの種類の木を使っとる。これはちょっとばかし傷が残っていて、丸い穴が空いていた。でも、傷が分からんようにくりぬいて手洗い場を設けた。

【和　室】…和室の障子は栗の木なんやで。この柱はまだ生きとってだんだん開いてきとる。日が当たる方が乾燥して縮むもんで反対側がぐっと張っちゃって割れてきちゃうんやな。

和室のドアはちょっと引くのが重いら。この木は湾曲する癖があって、からからの天気やともっと重くなる。雨降りになると木が真っすぐになって動きやすくなるんよ。

2　階

【トイレ】…ケヤキで造ってある。これも床が向こう側から40㎝～50㎝割れてきてる。トイレを据えちゃえば見えなくなるら。普通一枚20万、30万もしちゃうけど傷ものやと3分の1で買える。そうやって工夫して使うんや。

【物置場所】…完成させた時は中央を通っている大きな柱がぴったしくっついていたけど、やせてきて隙間ができちゃった。木の根元とそれの反対側では木の隙間のでき方が全然違う。木は大きければ大きいほど縮む率が高くなる。

【壁の板】…右と左の部屋で雰囲気が違うら。右の部屋は全部壁の板が横になっとって、反対に左の部屋は全部壁の板が縦になっている。普通、大工さんに頼むとここまでやってくれんわ。

7. 名古屋市の桶狭間で作成中のお寺

ここのお寺を建てるときに、見積りではまだどこの会社がやるかは分からなかった。安い会社をとるというのもあるけど、やっぱり評判がどうなのかってことが一番重要やな。この仕事も前にやったお寺の和尚さんが教えてくれてやることになった。やっぱり知り合いのお寺から「うちでやってもらったときはちゃんとやってくれたから頼んでみ」って紹介してもらうと、和尚さんも楽やしうちも楽になる。でも、なかなかそこまで持っていくことが難しいな。

このような大きなお寺を建てようと思ったら、うちみたいな大きな工場を持ってないと加工できへんし置いておくところもない。名古屋じゃ土地が高いもんでうちみたいな田舎やないと大きな工場はもてへんよ。それにこういう建築の加工の現場では、騒音が出るもんで住宅地ではちょっと難しいな。朝早くから夜遅くまでチェーンソーを使うし焼却炉は一日中動いているもんで町の中だと苦情がくるんだよ。

来年の5月の連休にはここで桶狭間の合戦450年祭があるわけよ。工期は再来年の9月いっぱいまでっていう契約があるけど、それまでに何とか造らないといけない。5月にお寺を完成させてPRするために看板を表に立てておけばまたそれで仕事がくるかもしれないからな。

8. 伊藤さんの弟子について

やっぱしお寺の規模は100坪とか150坪とかの大きな建物ばかりだもんで、働く人が5人か6人は必要になって順番に弟子をとっていくうちに5人になったな。うちの若い衆はたくさんおるもんで木を削って八角に仕上げる作業を全部手でやらしている。機械でやるとすごいお金をとられてしまうもんで。人間の手で削ると少しいびつになってしまうけど仕方ないな。大工みたいに普通の自宅はっかりやっていると人件費で潰れちゃうけど、宮大工の仕事は普通の自宅より時間をくうし手間がかかるもんで、ある程度の人数がおらんとできんな。

これから弟子に伝えたいことは木を良く見極める力を養うってことやな。

名人 伊藤（いとう） 博（ひろし）さんのプロフィール

●生年月日：昭和22年8月7日生まれ
●職　業：大工・宮大工

岐阜県中津川市付知町で生まれる。人柄は温厚、誠実で責任感が強く、品行方正清廉潔白な性格を身上とし卓越なる職見と指導力は高く評価され、現在5名の弟子に材木の見分け方から、墨付け、刻み、木割法、屋根の照出しなど寺院の建築に関わる工法を指導している。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　臼井征雄】